

2012年度 日本財団助成事業
 ジュニア・ライフセービング教室の開催
 および指導者養成プログラムの実施等
 <実施報告書>

ジュニア教育のこれまでの取り組み

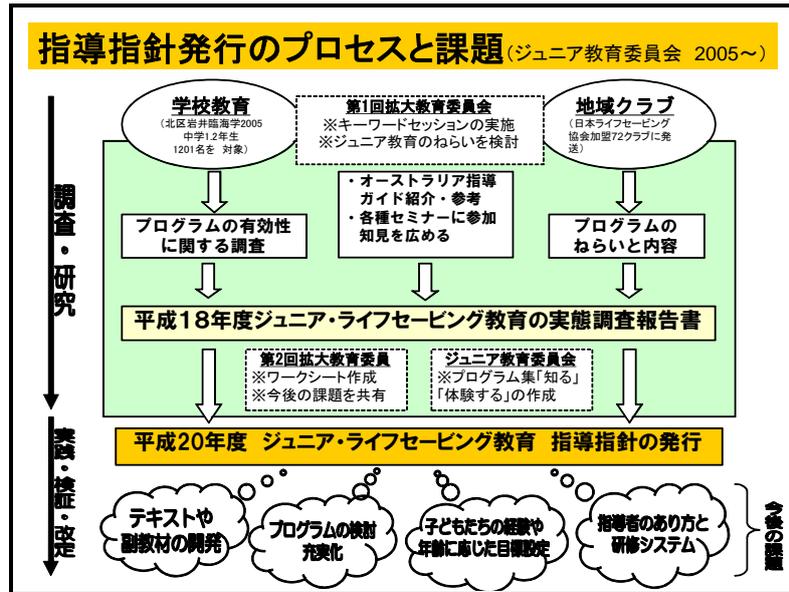


図 2-1 指導指針発行のプロセスと課題(「ジュニア・ライフセービング教育指導指針」より引用。)

<これまでの取り組み>

1) 2005年度

- ①キーワードセッションの実施。
- ②ジュニア・ライフセービング教育(以下、ジュニア教育)の「ねらい」を作成。
- ③ジュニア教育に関連するプログラムやシステムについて検討課題の確認。
- ④北区岩井臨海学園におけるアンケート調査。(プログラムの有効性)

2) 2006年度

- ①地域クラブにおけるアンケート調査。(プログラムのねらいと内容)
- ②ジュニア教育の実態調査報告書を発行。

3) 2007年度

- ①各クラブジュニア教育関係者によるワークシート作成。(拡大教育委員会)
- ②ジュニア教育指導指針を発行。

4) 2008年度

- ①ジュニア教育指導者養成システムのプログラム開発に着手。(課題整理)
- ②ジュニア教育指導者研修会の開催。(参加者による教材開発を含む)
- ③JLA 理事長とジュニア教育委員会の会談実施。(ジュニア教育の方向性確認)

5) 2009年度

- ①ジュニア教育指導者養成システムのプログラム開発研究。(研修会開催)
- ②ジュニア教育に関する保護者の意識調査実施。
- ③ジュニア教育指導指針の周知と検証。

6) 2010年度

- ①ジュニア教育指導者養成システムのプログラム構築。(研修会開催)

②ジュニア教育テキスト(教科書)と副教材の開発研究。

③ジュニア教育指導指針の周知と検証。

7) 2011 年度

①ジュニア教育指導者養成システムのプログラム構築と検証。(プレ養成講習会実施)

②ジュニア教育テキスト(教科書)の発行。

ジュニア・ライフセービング教室 実施報告

① 時期 : 2012年4月~2013年3月

② ねらい:水辺活動における楽しさの中から、自然や人との関わりあいを学び、相互理解から命の大切さを実感することによって、たくましく豊かな人間形成を目指す。

③ 対象 : 小学生・中学生 / 目標人数:50名×15回 計750名

④ 場所 : 過去の実績を踏まえ会員クラブへ公募し、開催クラブ活動浜にて実施

⑤ 物件 : ニッパーボード/テキスト/ジュニア用パトロールキャップ/横断幕

■実施報告

20ヶ所 合計人数 617名

	実施クラブ	参加人数
1	札幌 LSC	33
2	小樽 LSC	12
3	若狭和田 LSC	3
4	勝浦 LSC	40
5	榛原 LSC	12
6	西伊豆 LSC	14
7	鴨川 LSC	24
8	館山 SLSC	30
9	相良 SLSC	30
10	大竹 SLSC	11
11	沼津 LSC	20
12	流通経済大学 LSC	39
13	横浜海の公園 LSC	66
14	かごしま磯 LSC	30
15	広島 LS	34
16	京都 LSC	30
17	大分 LSC	26
18	岡山 LSC	21
19	コバルトブルー下関 LSC	69
20	中部支部	33
21	北谷公園サンセットビーチ LSC	40
	合計	617

■主なプログラム

- スタッフ紹介、自己紹介
- 準備体操
- 水なれ、サーフフィットネス(インアウトやウェーディングの練習)
- サーフサバイバル(浮き身の練習、大きな声で叫ぶ練習、バックストロークの練習)
- ビーチクリーン
- 1日のスケジュールの確認
- 今日の目標

- ジュニアテキストを使用しての海の安全11か条
- バディシステム(健康管理)
- 危険生物の勉強
- 水中でのシグナルのお勉強
- ライフセーバー使用器材の説明
- 海象調査
- 監視タワーに登ってライフセーバー体験
- レスキュー体験(水に入らずに道具を使つてのドライレスキュー方法を学ぶ)
- 流れ体験(プールに流れを作り、水の力を体験する)
- ライフセーバーによるデモンストレーションを見る
- セルフレスキュー、ドライレスキュー(ロープやビニール袋を使用して自分を守る方法を知る)
- ライフセービング競技ビーチフラッグスを体験
- ニッパーボード
- レスキューチューブ体験(人を引っ張ることで命の重さを知る)
- 心肺蘇生法、救急法の勉強(命の大切さを伝える)
- みんなでライフセービングリレー
- チームレスキュー(搬送やレスキュー方法を考え、挑戦させる)
- 本日のまとめ、振り返り(行ったことを振り返り、仲間に自然に全てに感謝をする)

■タイムテーブル例(2時間)

10:00～10:10	【開校式】ライフセービング・オリエンテーション
10:10～10:30	海の安全11か条
10:30～10:40	ビーチクリーン
10:40～10:45	休憩(水分補給)
10:45～10:50	バディシステム
10:50～11:00	準備運動・水なれ
11:00～11:10	レスキューデモンストレーション
11:10～11:20	サーフフィットネス
11:20～11:25	休憩(水分補給)
11:25～11:45	ニッパーボード、ビーチフラッグス体験
11:45～12:00	【閉校式】振り返り、記念撮影

ジュニア教室用器材および教材の配布

- ニッパーボードの配布
 - 40本=各クラブ2本×20クラブ
- ジュニア用パトロールキャップの配布
 - 539枚
- ジュニアテキストの配布
 - 2689冊
- ジュニアリーフレットの配布
 - 2689部
- 講習会ジュニア用 PFD(ライフジャケット)の購入
 - 225着



ニッパーボード



ジュニア用パトロールキャップ



PFD(ライフジャケット)

配布クラブ	テキスト	リーフレット
榛原 LSC	100	100
ヤマハスポーツ振興財団	60	60
神奈川県支部	250	250
こどもの城	50	50
攻玉社中学校	200	200
コバルトブルー下関 LSC	200	200
秋田 LSC	60	60
キララ LSC	130	130
淡輪 LSC	100	100
ジュニア教室申請クラブ	539	539
5 支部 × 200 部	1,000	1,000
合計	2,689	2,689



ジュニアテキスト



ジュニアリーフレット

ジュニア・ライフセービング教室 保護者の意識調査<調査報告>

1. 調査概要

1) 調査の目的

ジュニア・ライフセービング教室（以下、ジュニア教室）等に「参加させる」と判断するのは保護者である。また、最大のサポーターになりうる可能性も大いに秘めている。そこで、保護者の視点からジュニア教室等への意見収集を実施し、今後のジュニア・ライフセービング教育やその指導のあり方を検証する。

今年度は、昨年度調査したアンケート同様の項目にて実施し、その結果から継続して比較検討できるようにした。また、日本財団より助成いただき完成することができた、平成 18 年度ジュニア・ライフセービング教育の実態調査報告書の内容（1.3.2 地域クラブにおけるジュニア教育の実態調査の考察 p.39）について検証できるようにしている。

2) 調査の方法

①アンケート対象

2012 年度日本財団ジュニア教室 実施 20 クラブ

②アンケート回収クラブ及び回答者数

15 クラブ 回答者 196 名

③アンケート実施

ジュニア教室開催時、質問紙法にて実施。

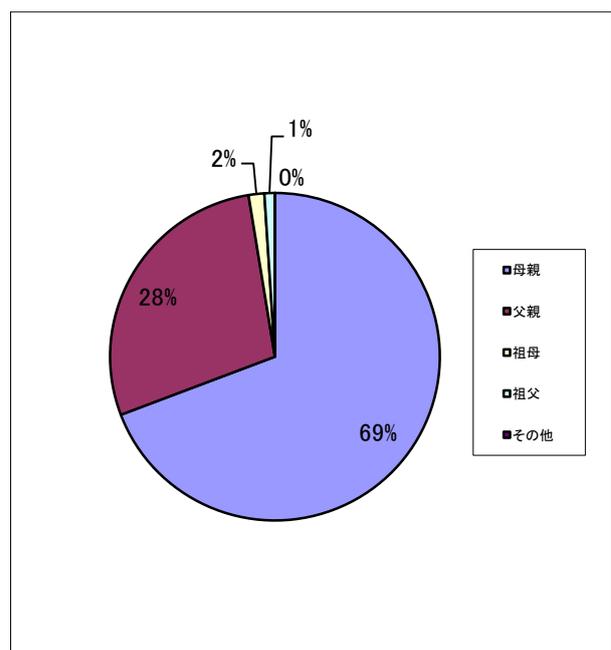
2. 調査結果および考察

1) 保護者（回答者）について

①参加者との関係

母親の引率が 69%であり、母親に対するアプローチが重要であることが伺える。

	母親	父親	祖母	祖父	その他
相良	15	15			
北谷	5	3			
西伊豆	5	1	1		
若狭和田	3				
大竹	7	1			
鴨川	7	3	1	1	
館山	10	1			
榛原	7				
広島	25	12			
京都	8	10			
流経大	5	2	1		
小樽	12				
岡山	10	4			
札幌	16	2			
下関		1		1	

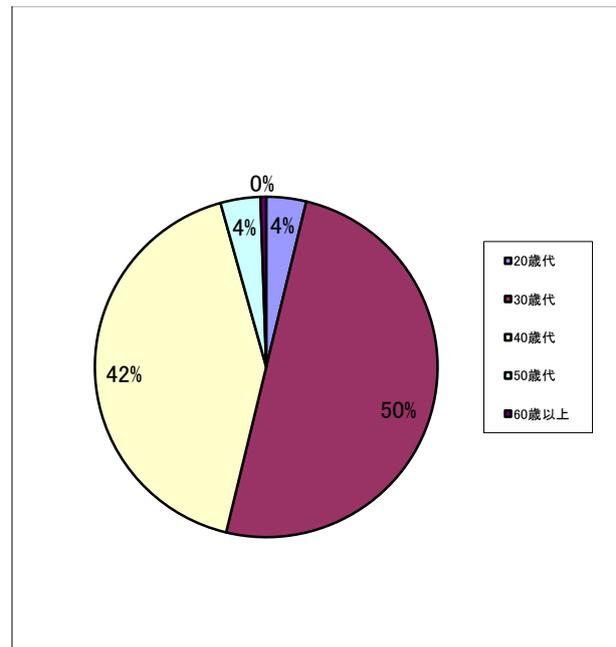


母親	父親	祖母	祖父	その他
135	55	3	2	0

②保護者の年齢

30歳代にて50%を占めることになり、40歳代を加えると92%になる。

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
相良	2	14	14		
北谷		2	5		
西伊豆		3	2	1	1
若狭和田			3		
大竹		1	5	2	
鴨川	1	6	2	1	
館山		6	5		
榛原		5	2		
広島	1	20	15	1	
京都		7	10	1	
流経大			3		
小樽	3	9			
岡山		7	7		
札幌		12	5		
下関		1		1	



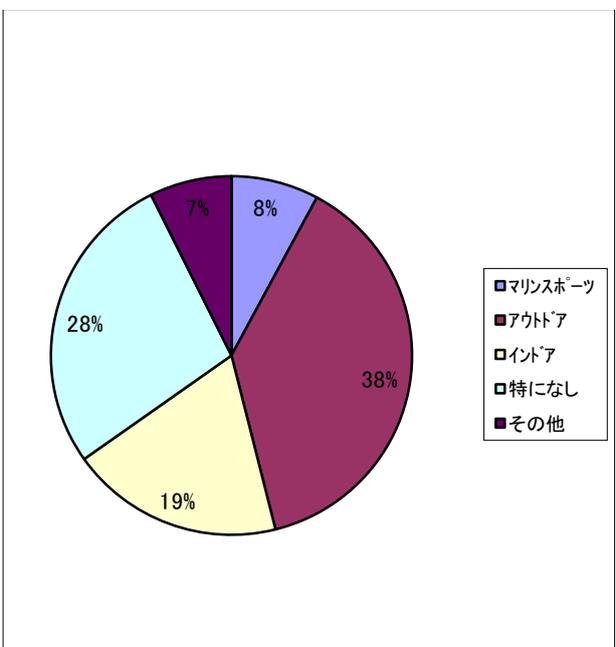
20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上
7	93	78	7	1

③休日の過ごし方

アウトドア志向が38%であり、マリンスポーツを加えると46%になる。

インドア志向と特になしが47%であった。

	マリンスポーツ	アウトドア	インドア	特になし	その他
相良		10	5	15	
北谷	3	5	1		
西伊豆		2		5	
若狭和田			1	2	
大竹		3	1	3	1
鴨川	3	5	3	1	1
館山	4	5		2	
榛原	3	1	1	1	1
広島		12	7	17	3
京都	3	8	4	3	3
流経大		3	2	2	1
小樽		6	6		
岡山		9	1		2
札幌		8	7	3	3
下関		1		2	



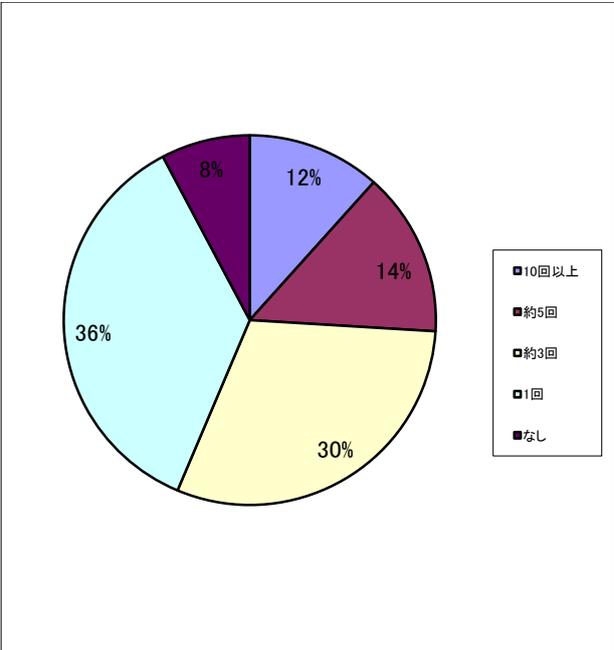
マリンスポーツ	アウトドア	インドア	特になし	その他
16	78	39	56	15

④海水浴の回数（1シーズン）

年1回のみ海水浴をするが36%であり、なし回答を加えると44%になる。
6つの地域クラブは、なし回答があった。特別なイベントであることが伺える。

	10回以上	約5回	約3回	1回	なし
相良		10	10	10	
北谷	4	2	1		
西伊豆		1	1	2	3
若狭和田	2				1
大竹	1		5	2	
鴨川	4	3	2	1	
館山	6	2	2		1
榛原	2	1	1	3	
広島		1	7	20	4
京都	1	2	8	6	
流経大				5	
小樽		3	6	3	
岡山	1	1	4	5	2
札幌			8	5	3
下関				3	

10回以上	約5回	約3回	1回	なし
21	26	55	65	14

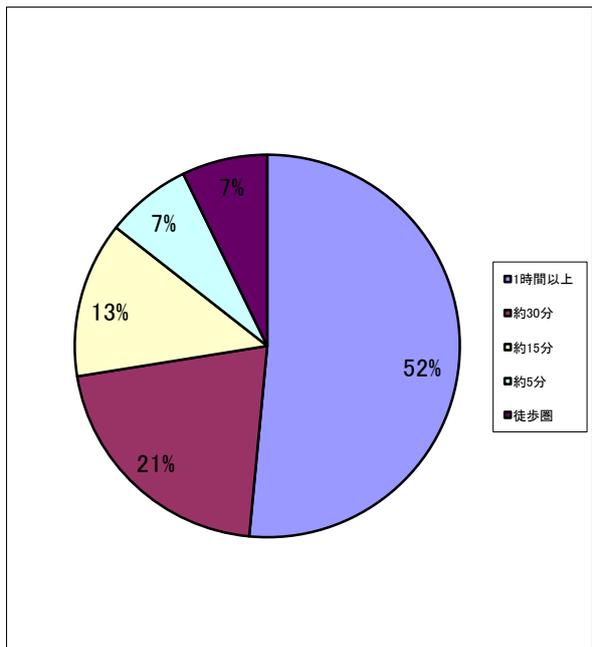


⑤海までの距離（自動車にて）

1時間以上が52%であり、30分以上を加えると73%になる。
5分以内が7%であることから、近所よりも遠方から参加している傾向がある。
地域クラブによっては、1時間以上が多いところもある。

	1時間以上	約30分	約15分	約5分	徒歩圏
相良	25	5			
北谷		3	1	1	2
西伊豆			1	3	3
若狭和田				2	1
大竹	1	4	3		
鴨川	5	2			3
館山		2	4	3	2
榛原	4	1	1		1
広島	15		1		
京都	16	1		1	
流経大	7			1	
小樽	8	2	2		
岡山	4	9			
札幌	1	5	8		
下関		1	1	1	

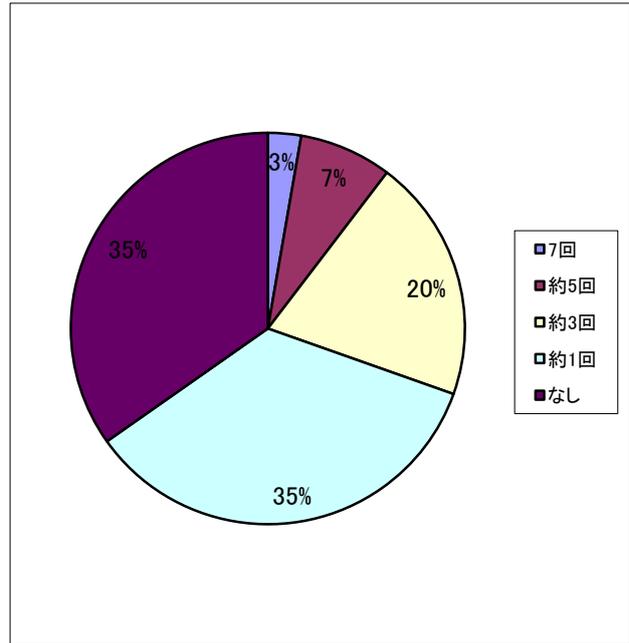
1時間以上	約30分	約15分	約5分	徒歩圏
86	35	22	12	12



⑥運動歴（1週間）

なしが 35%であり、約 1 回を加えると 70%である。

	7回	約5回	約3回	約1回	なし
相良				20	10
北谷	1	1	3	1	1
西伊豆					7
若狭和田				1	2
大竹		1	1	1	5
鴨川		1	1	4	4
館山	1	2	5	1	2
榛原	1		1	1	4
広島		7	4	7	14
京都		1	7	7	3
流経大	2		4	1	
小樽			5	7	
岡山		1	4	5	3
札幌			1	7	8
下関			1	1	1

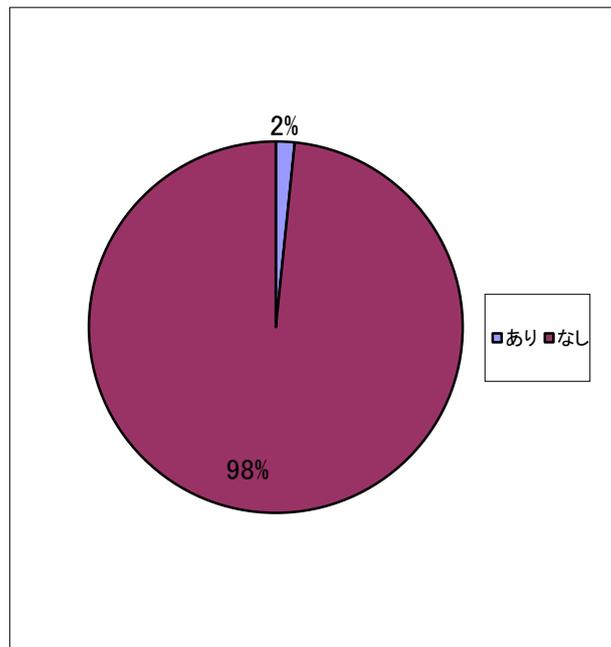


7回	約5回	約3回	約1回	なし
5	14	37	64	64

⑦ライフセーバー歴

なしが 98%であった。前年度ほぼ同様の結果。ライフセービング活動未経験の保護者へのアプローチが重要であることが伺える。ライフセービング歴がなくても、子どもにジュニア教室を体験させたい要素があるのであろう。

	あり	なし
相良		30
北谷		7
西伊豆		7
若狭和田		3
大竹		8
鴨川		10
館山	1	10
榛原		7
広島		31
京都		18
流経大	1	7
小樽		12
岡山		13
札幌	1	16
下関		3



あり	なし
3	182

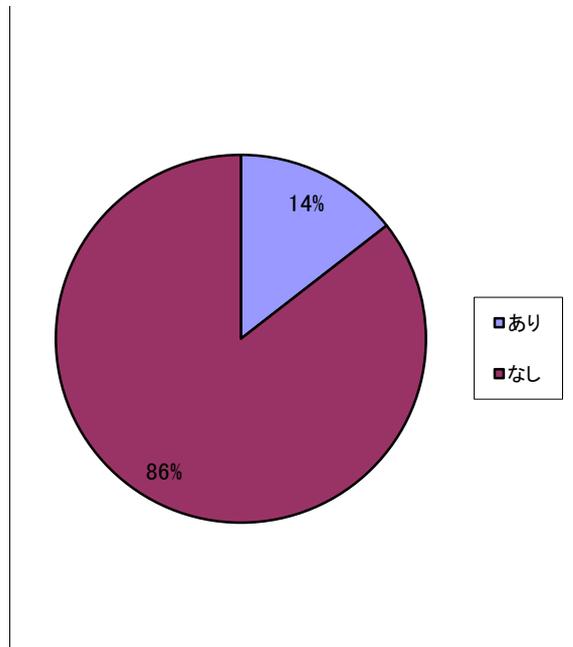
⑧応急手当資格取得

なしが 86%であった。前年度ほぼ同様の結果。

ライフセービング歴がなくても、資格取得している保護者がいることになる。

	あり	なし
相良		30
北谷	3	4
西伊豆	2	5
若狭和田		3
大竹		8
鴨川	3	7
館山	2	9
榛原	1	6
広島	9	24
京都	4	14
流経大	2	6
小樽		12
岡山		13
札幌	1	16
下関		3

あり	なし
27	160



2) 参加者について

①学年

小学校3・4年生が 38%であり、小学校1・2年生を加えると 63%になる。

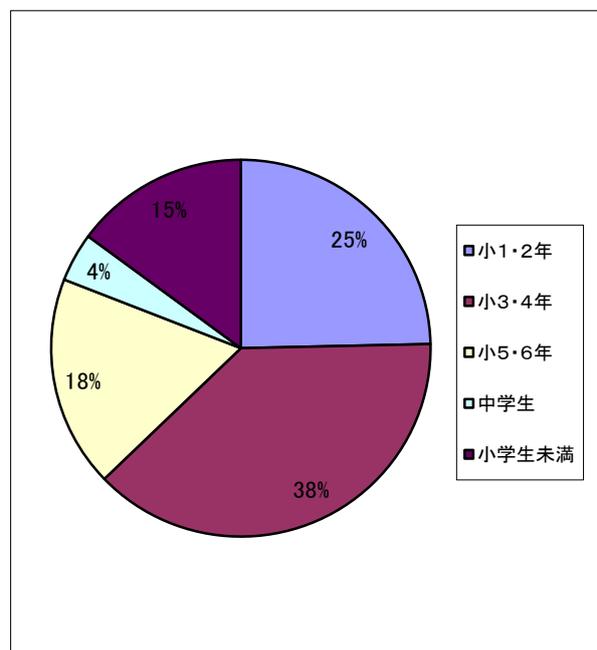
中学生は 4%であり、小学生未満は 15%である。

小学校低中学年層が多く、中学生は極少数である。

地域クラブによっては、小学生未満が多いところもありニーズがあることが伺える。

	小1・2年	小3・4年	小5・6年	中学生	小学生未満
相良	10	15	5		
北谷	3	2	1	1	1
西伊豆		7			
若狭和田	1	1	1		
大竹	1	3	3	1	
鴨川	6	4			4
館山	2	8	3	2	
榛原	3	3	1		
広島	9	4	3		17
京都	3	7	8	5	4
流経大	3	3	1		
小樽		9	2		1
岡山	1	12	6		1
札幌	11	4	3		4
下関			2		

小1・2年	小3・4年	小5・6年	中学生	小学生未満
53	82	39	9	32

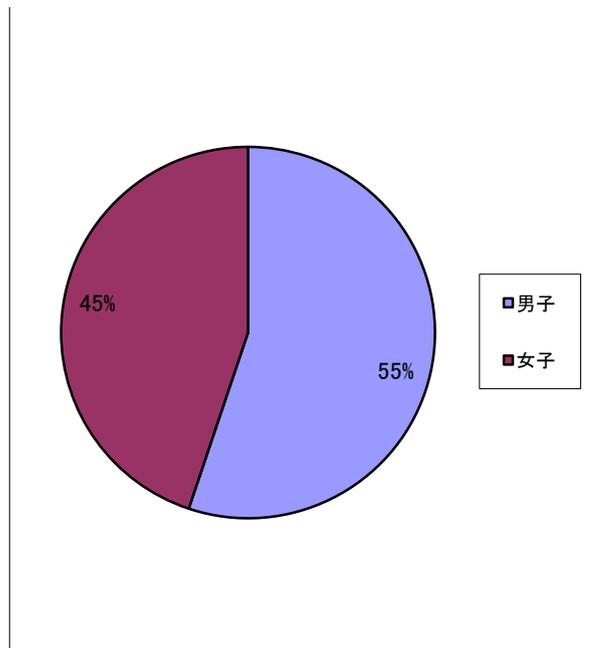


②性別

男子は 55%であり、女子は 45%であった。

	男子	女子
相良	18	12
北谷	4	3
西伊豆	2	5
若狭和田	1	2
大竹	3	5
鴨川	7	6
館山	7	8
榛原	1	6
広島	19	13
京都	14	11
流経大	9	5
小樽	3	9
岡山	15	5
札幌	13	6
下関	2	

男子	女子
118	96



③ジュニア教室参加経験

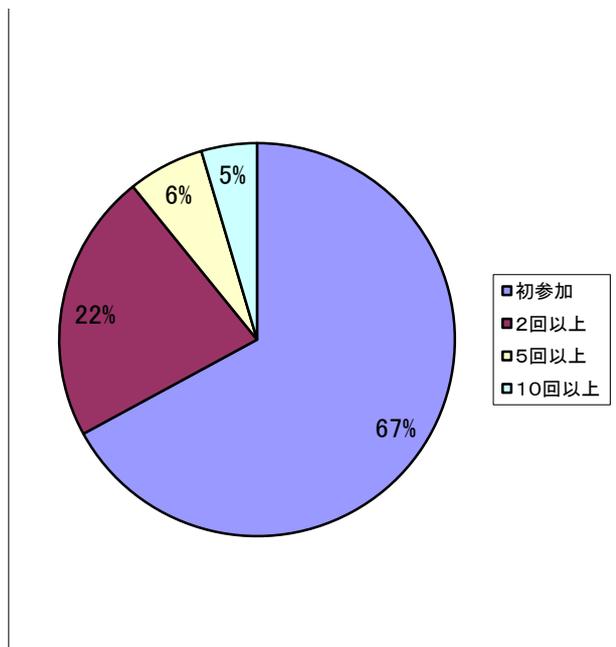
初参加が 67%である。前年度より 9%減。

2 回以上～4 回以下は 22%であり、あわせると 89%であった。

新規参加者（子ども・保護者）獲得に向けた取り組みを継続することや、リピーターに対してのプログラム等の工夫が必要であると思われる。

	初参加	2回以上	5回以上	10回以上
相良	10	15	5	
北谷	3	1		
西伊豆	7			
若狭和田	1	2		
大竹	1	3	2	2
鴨川	9	1		
館山		2	4	6
榛原	7			
広島	25			
京都	17	1		
流経大	7			
小樽	9	3		
岡山	12	1		
札幌	8	10		
下関	2			

初参加	2回以上	5回以上	10回以上
118	39	11	8



④運動・スポーツ経験

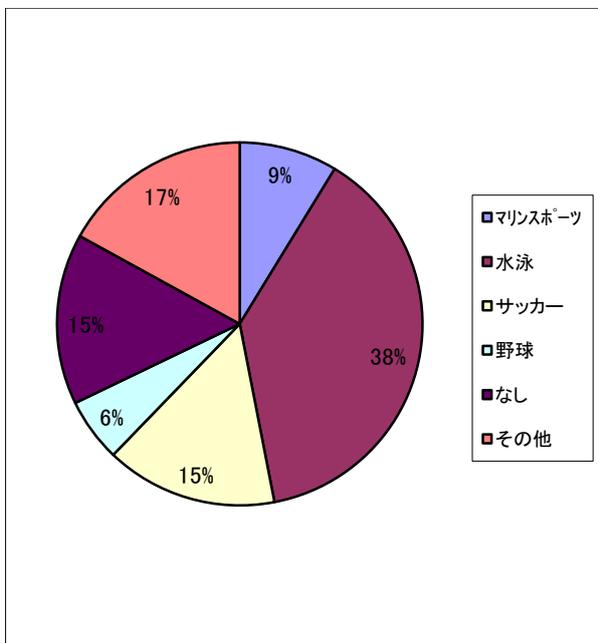
水泳が 38%であり、マリンスポーツを加えると 47%になる。

前年度ほぼ同様の結果。水に係わるスポーツ経験者が半数を超える状況から、今後も水に係わるスポーツ団体・個人にアプローチを深める必要があると思われる。

経験なしが 15%であり、指導の際に体力面等を配慮する必要があると思われる。

前年度ほぼ同様の結果。

	マリンスポーツ	水泳	サッカー	野球	なし	その他
相良		10	8	8	6	
北谷		3			1	1
西伊豆		6	1		1	2
若狭和田					3	
大竹		2	2	1	2	1
鴨川	3	2	2	1	4	
館山	5	6	3			3
榛原	3	1			3	
広島	4	15	3	1	11	6
京都	2	10	4		2	14
流経大		3	4			3
小樽	3	7	2	1		
岡山		10	3			5
札幌		13	2	1	2	3
下関			1			1

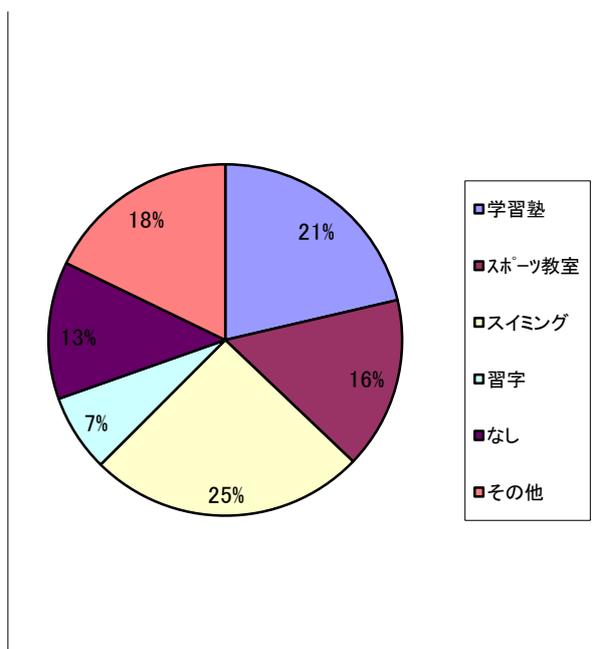


マリンスポーツ	水泳	サッカー	野球	なし	その他
20	88	35	13	35	39

⑤習い事

スイミングスクールが 25%であり、上記④同様に団体・個人にアプローチを深める必要があると思われる。

	学習塾	スポーツ教室	スイミング	習字	なし	その他
相良	10	12			8	
北谷	2	2	2		1	1
西伊豆	1	2	3	4		1
若狭和田					3	
大竹	1	4	2		1	
鴨川	1	3	2	2	5	
館山	2	3	7	1		5
榛原	1	2	1	1	2	
広島	4	4	13	1	9	12
京都	11	4	5	3		5
流経大	1	1	3	1	1	3
小樽	9	1	6			1
岡山	6	2	7	4		6
札幌	3		13	1	2	11
下関	2					



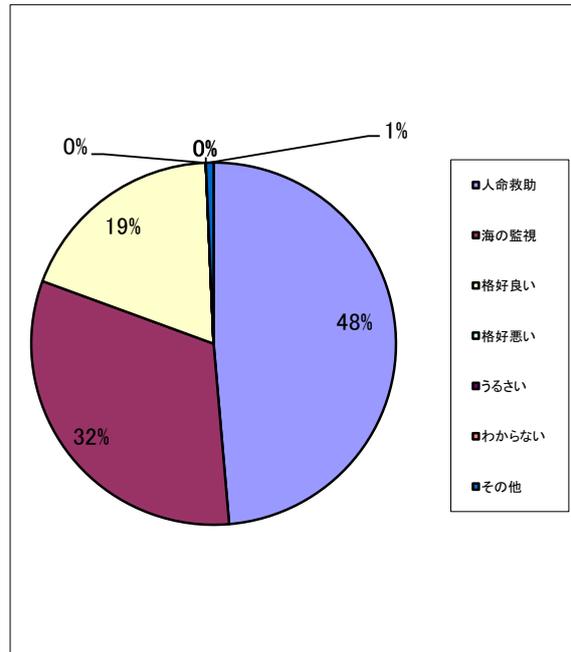
学習塾	スポーツ教室	スイミング	習字	なし	その他
54	40	64	18	32	45

3) ジュニア・ライフセービング全般について

①ライフセーバーのイメージ

人命救助が48%であり、海の監視を加えると80%になる。前年度同様の結果。否定的な回答はゼロであり、正しく肯定的なイメージを持たれている。

	人命救助	海の監視	格好良い	格好悪い	うるさい	わからない	その他
相良	18	12					
北谷	6	5	3				
西伊豆	7	4	3				
若狭和田	3						
大竹	7	1					
鴨川	8	8	6				1
館山	9	10	6				
榛原	7						
広島	19	19	12				
京都	16	14	5				
流経大	5	4	3				
小樽	9	5	6				
岡山	11	4	2				
札幌	15	8	9				1
下関	3						

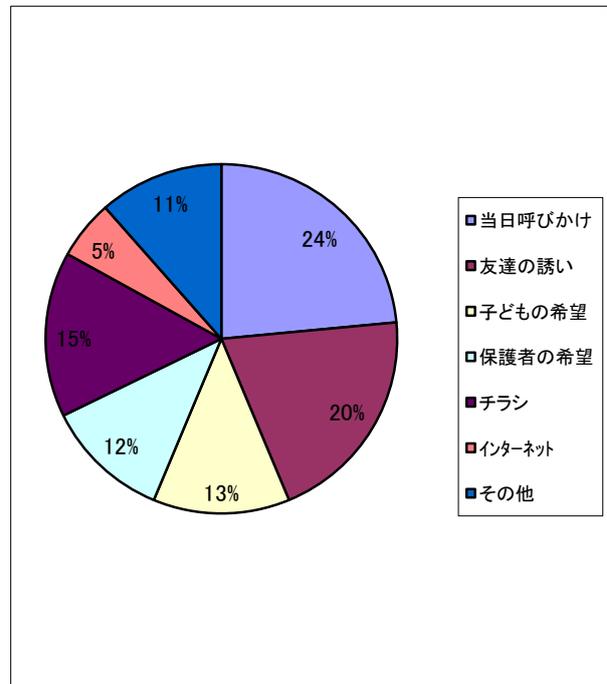


人命救助	海の監視	格好良い	格好悪い	うるさい	わからない	その他
143	94	55	0	0	0	2

②ジュニア教室 参加のきっかけ

当日の呼びかけが24%であり、当日に参加者を獲得することも可能であることがわかる。チラシも15%で効果がある。今後も、告知を含めた参加者（子ども・保護者）獲得について工夫の継続が必要であると思われる。

	当日呼びかけ	友達の誘い	子どもの希望	保護者の希望	チラシ	インターネット	その他
相良	10		10		10		
北谷	2	3	1	2			1
西伊豆		1	1	1	4		
若狭和田	2				1		
大竹		3	2	3			
鴨川	6		1	1	1		
館山		1	2	1	6		1
榛原	5	1			1		
広島		24		3			
京都	13	1	1	5	1		
流経大	3		3				
小樽	2				1	9	
岡山		1	1	3	1	1	5
札幌		2	1	2	2		11
下関							3



当日呼びかけ	友達の誘い	子どもの希望	保護者の希望	チラシ	インターネット	その他
43	37	23	21	28	10	21

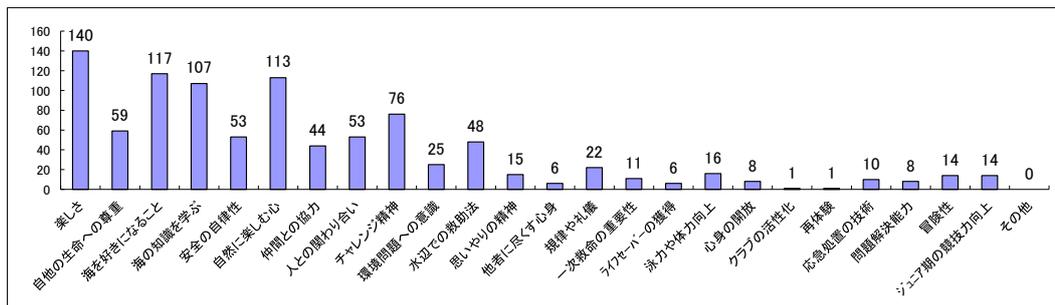
③ジュニア教室 参加のねらい (キーワードを5つ選出)

「楽しさ」が140ポイントで一番多かった。

続いて、「海を好きになること」が117ポイント、「自然に親しむ心」が113ポイント、「海の知識を学ぶ」が107ポイントと続いた。

	楽しさ	自他の生命への尊重	海を好きになること	海の知識を学ぶ	安全の自覚性	自然に親しむ心	仲間との協力	人との関わり合い	チャレンジ精神	環境問題への意識	水辺での救助法	思いやりの精神	他者に尽くす心身	規律や礼儀	一次救命の重要性	ライフボートの獲得	泳力や体力向上	心身の開放	クラブの活性化	再体験	応急処置の技術	問題解決能力	冒険性	ジュニア期の競技力向上	その他
相良	50	20	50	30	15	56	10	8	8	10	14	5													
北谷	3	1	4	5	1	2	3	2	2	2	1	1		2			2					1	1	1	2
西伊豆	5	3	1	4	5	4	1	2	5					1		1	3	1						1	
若狭和田	3		3	11		3		2	2		1											2			
大竹	8			5		5	3	3	2	1	5	1		2			3								
鴨川	6	1	7	4	5	4	2	5	7		1	1		1			1			1		1	1		
館山	4	5	5	3	1	3	3	3	3		2	1	1	4							1	2	2		7
榛原	5	2	5	6	5	1			4		2			1	1							1			
広島	13	2	13	9	2	18	5	8	11	1	8	1	2	5	1	3	4	6			1		5	2	
京都	11	11	3	8	8	2	4	7	9	6	2	5	2	2											2
流経大	3	1	5	5	1		3						2	1				1			2	2	1	1	
小樽	12		11	9	5	5	2	1	11																
岡山	6	7	1	7	1	2	4	4	7		8			1	3	1						2		1	
札幌	11	3	9	11	2	8	4	8	5	4	3			1	2	1	1		1				2		
下関		3			2						3				3		2					1	1		

楽しさ	自他の生命への尊重	海を好きになること	海の知識を学ぶ	安全の自覚性	自然に親しむ心	仲間との協力	人との関わり合い	チャレンジ精神	環境問題への意識	水辺での救助法	思いやりの精神	他者に尽くす心身	規律や礼儀	一次救命の重要性	ライフボートの獲得	泳力や体力向上	心身の開放	クラブの活性化	再体験	応急処置の技術	問題解決能力	冒険性	ジュニア期の競技力向上	その他
140	59	117	107	53	113	44	53	76	25	48	15	6	22	11	6	16	8	1	1	10	8	14	14	0

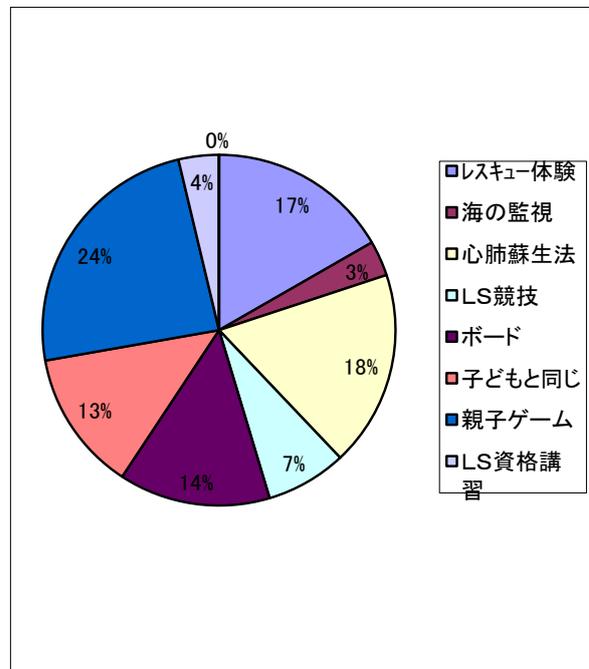


④保護者プログラムがあったら、どんなことをやってみたいか？

親子ゲームが24%、心肺蘇生法が18%、レスキュー体験が17%であった。

前回最も多かった「心肺蘇生」を「親子ゲーム」が上回った。

	レスキュー体験	海の監視	心肺蘇生法	LS競技	ボード	子どもと同じ	親子ゲーム	LS資格講習	その他
相良			10			10	10		
北谷	2		2	2	2	1		1	
西伊豆	1				1		2		
若狭和田	1		2						
大竹	1	1	3			2		1	
鴨川	3	1	1	2	2		3		
館山	4	2	4	1	3	1	1		
榛原	2				1	2	2		
広島	7		4	4	6	2	13	1	
京都	5		4	2	2	3	2	2	
流経大			2	3		1	3	1	
小樽	1	2			10	3	8		
岡山	4		1	1	1	1	2	2	
札幌	4	1	5	1	1	2	6		
下関	1		1		1				



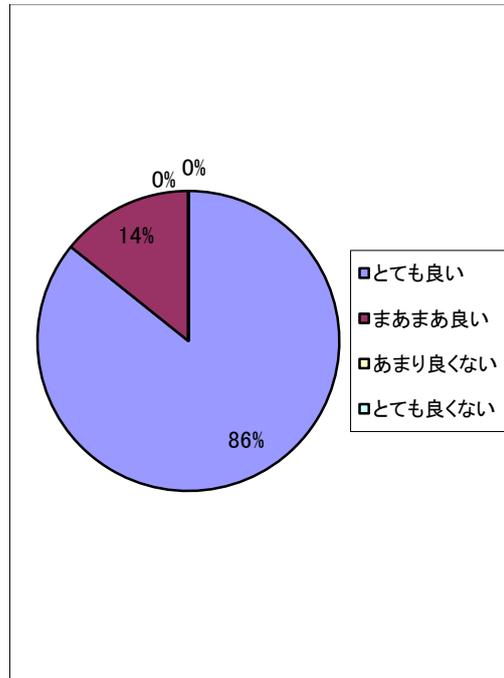
レスキュー体験	海の監視	心肺蘇生法	LS競技	ボード	子どもと同じ	親子ゲーム	LS資格講習	その他
36	7	39	16	30	28	52	8	0

4) ジュニア教室の評価

①内容

とても良いが 86%であり、肯定的な回答がほとんどであった。

	とても良い	まあまあ良い	あまり良くない	とても良くない
相良	30			
北谷	6	1		
西伊豆	5	2		
若狭和田	1	2		
大竹	6	2		
鴨川	6	4		
館山	10	1		
榛原	7			
広島	18	8		
京都	14	4		
流経大	5	1		
小樽	12			
岡山	12			
札幌	16			
下関	3			

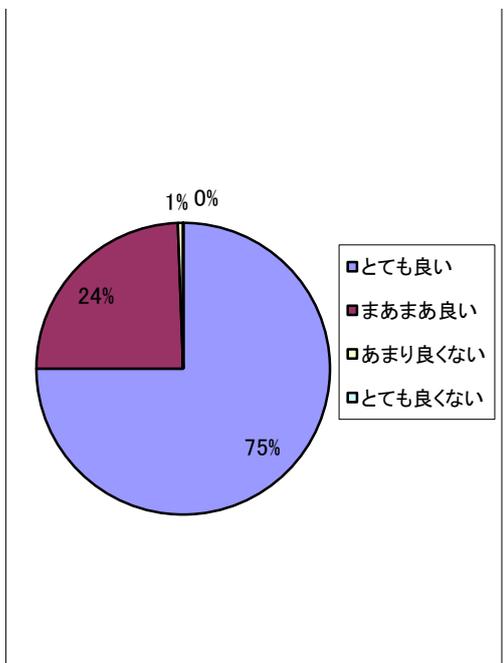


とても良い	まあまあ良い	あまり良くない	とても良くない
151	25	0	0

②時間

とても良いが 75%であり、肯定的な回答がほとんどであった。

	とても良い	まあまあ良い	あまり良くない	とても良くない
相良	30			
北谷	4	2	1	
西伊豆	4	3		
若狭和田		3		
大竹	3	5		
鴨川	7	3		
館山	10	1		
榛原	5	2		
広島	23			
京都	9	9		
流経大	5	1		
小樽	5	7		
岡山	9	3		
札幌	12	3		
下関	3			

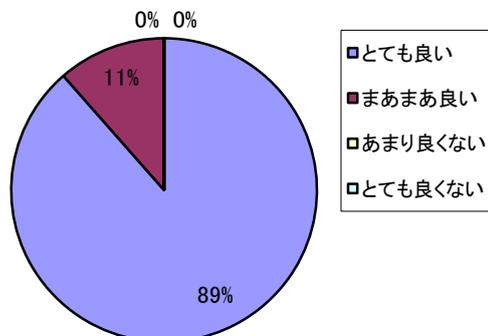


とても良い	まあまあ良い	あまり良くない	とても良くない
129	42	1	0

③場所

とても良いが 89%であり、肯定的な回答がほとんどであった。

	とても良い	まあまあ良い	あまり良くない	とても良くない
相良	30			
北谷	6	1		
西伊豆	6	1		
若狭和田	3			
大竹	8			
鴨川	7	3		
館山	9	2		
榛原	6	1		
広島	15	1		
京都	13	5		
流経大	5	1		
小樽	12			
岡山	11	1		
札幌	14	2		
下関	2	1		

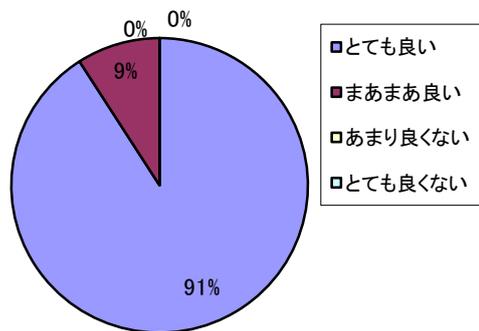


とても良い	まあまあ良い	あまり良くない	とても良くない
147	19	0	0

④指導

とても良いが 91%であり、肯定的な回答がほとんどであった。

	とても良い	まあまあ良い	あまり良くない	とても良くない
相良	30			
北谷	6	1		
西伊豆	4	3		
若狭和田	2	1		
大竹	5	3		
鴨川	7	3		
館山	10	1		
榛原	6	1		
広島	25	1		
京都	16	2		
流経大	6			
小樽	12			
岡山	12			
札幌	16			
下関	3			

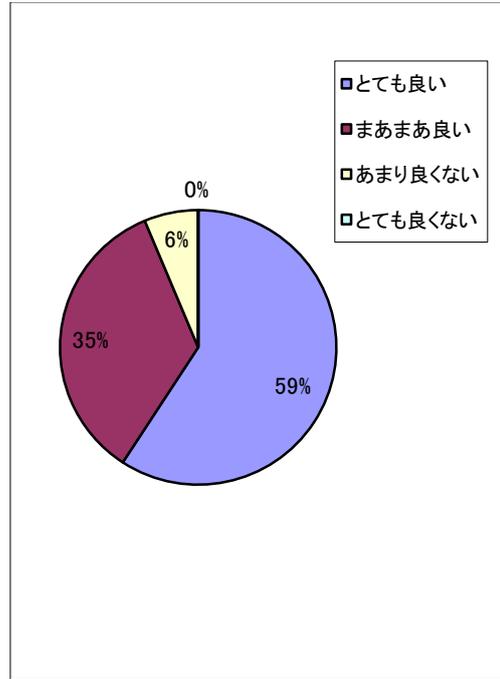


とても良い	まあまあ良い	あまり良くない	とても良くない
160	16	0	0

⑤告知

とても良いが59%であり、あまり良くないが6%であった。
改善の余地がある。

	とても良い	まあまあ良い	あまり良くない	とても良くない
相良	30			
北谷	4	3		
西伊豆	3	4		
若狭和田		3		
大竹	3	3	2	
鴨川	5	4	1	
館山	10	1		
榛原	4	3		
広島	12	11	3	
京都	9	7	2	
流経大	5	1		
小樽		10	2	
岡山	6	5	1	
札幌	11	3		
下関	1	2		

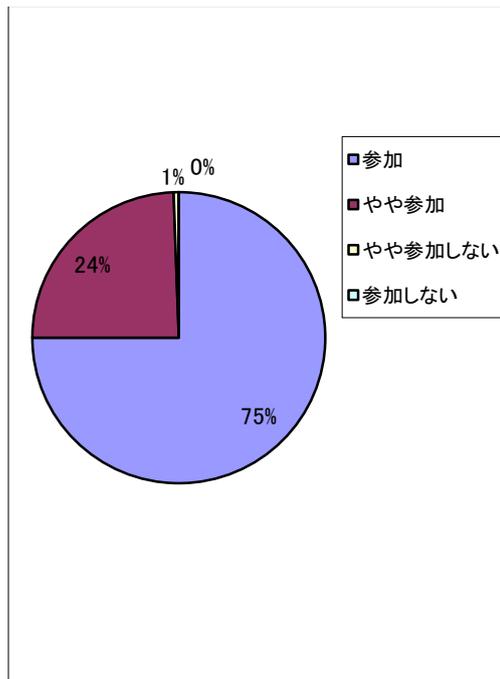


とても良い	まあまあ良い	あまり良くない	とても良くない
103	60	11	0

⑦ 次回参加

参加が75%であり、肯定的な回答がほとんどであった。

	参加	やや参加	やや参加しない	参加しない
相良	30			
北谷	5	2		
西伊豆	4	3		
若狭和田	2	1		
大竹	7	1		
鴨川	7	2		
館山	11			
榛原	4	3		
広島	16	10		
京都	9	9		
流経大	6			
小樽	6	7		
岡山	10	1	1	
札幌	13	3		
下関	2	1		



参加	やや参加	やや参加しない	参加しない
132	43	1	0

4. 成果と課題

日本財団ジュニア教室保護者アンケートの目的のひとつである、「数値化を目指す」を具現化し 3 年目を迎えた。アンケート 23 項目中ほとんどの項目が前年度とほぼ同様の結果となった。変化のあった項目は、「心肺蘇生体験」よりも「親子ゲーム」のニーズが高くなったことで、それに応じたプログラムの提供がもとめられる。今後も継続することで、調査研究の基盤としたい。

今後も継続した調査を実施することで、ジュニア教室に子どもを参加させる保護者の意識やニーズを探り、更なるジュニア教室の実施・検証を通して、ジュニア・ライフセービング教育の普及・発展を推し進め、子ども達への安全の自律性や事故防止の思想、自他の生命尊厳の教育体系化を目指したい。

ジュニア指導者養成プログラムの実施

<実施報告>

● ジュニア・ライフセービング指導者養成プログラムの実施

- 目的: 指導員養成プログラムの実施
- 期間: 2012年4月～2013年3月
- 方法:
 - ◇ **ジュニア教育委員会(会議)の開催**
 - 委員会を開催し、ジュニア指導者養成の実施について協議
 - 9/25、10/16、11/20、1/22(成城学園)、2/1(成城学園)、3/5、3/1、3/12(成城学園)
 - ◇ **ジュニア・リーダー養成講習会の開催**
 - 開催日
 - ◇ 07月01日 参加数;17名 アクアみすみ(島根県浜田市)
 - ◇ 07月15日 参加数;10名 成城学園(東京都)
 - ◇ 12月02日 参加数;4名 流通経済大学(茨城県)
 - ◇ 02月17日 参加数;3名 九段中等教育学校(東京都)
 - ◇ 02月23日 参加数;2名 山形市総合スポーツセンター(山形県)
 - ◇ 03月03日 参加数;9名 春日市立市民スポーツセンター(福岡県)
 - 内容
 - ◇ ジュニア教育概論
 - ◇ リーダーの役割と心掛け
 - ◇ 子どもについて
 - ◇ ジュニア教育とスポーツ
 - ◇ 伝え方
 - ◇ 小児・乳児の心肺蘇生法
 - ◇ ジュニア教育と心肺蘇生法
 - ◇ ウォーターセーフティープログラム
 - ◇ **指導員養成講習会の開催**

■事前説明会

日程	参加人数	会場
12月8日(土)	12	流通経済大学 龍ヶ崎キャンパス
12月9日(日)	4	国立オリンピック記念青少年総合センター
12月21日(金)	9	国立オリンピック記念青少年総合センター
2月22日(金)	3	BumB 東京スポーツ文化館
2月23日(土)	3	かながわ女性センター

■CPR 事前研修会

日程	参加人数	会場
12月23日(日)	12	千代田区立九段中等教育学校
12月25日(火)	8	国立オリンピック記念青少年総合センター
3月8日(金)	7	国立オリンピック記念青少年総合センター

■CPR 本講習会

日程	参加人数	会場
1月12日(土)～15日(火)	15	流通経済大学 龍ヶ崎キャンパス
3月20日(水祝), 23日(土), 24日(日)	11	成城学園

■ Water Safety 事前研修会

日程	参加人数	会場
2月2日(土)	5	流通経済大学 龍ヶ崎キャンパス
2月3日(日)	4	流通経済大学 龍ヶ崎キャンパス
3月30日(土)	3	流通経済大学 龍ヶ崎キャンパス

■ Water Safety 本講習

日程	参加人数	会場
2月9日(土)～10日(日)	5	流通経済大学 龍ヶ崎キャンパス
2月11日(月祝)～12日(火)	7	流通経済大学 龍ヶ崎キャンパス
4月6日(土)～7日(日)	5	流通経済大学 龍ヶ崎キャンパス

■ CPR, Water Safety 指導員養成事後研修

日程	参加人数	会場
2月23日(土)	15	国立オリンピック記念青少年総合センター
4月13日(土)	4	神明いきいきプラザ

◇ 指導員養成プログラムの実施に関する器材購入や教材制作

- ウォーターセーフティ教本の制作(5000部)
- ジュニアリーダー教本の制作(1000部)
- 訓練用小児ダミー人形(20体)
- 訓練用乳児ダミー人形(20体)



ウォーターセーフティ教本



ジュニアリーダー教本



訓練用乳児ダミー人形



訓練用小児ダミー人形

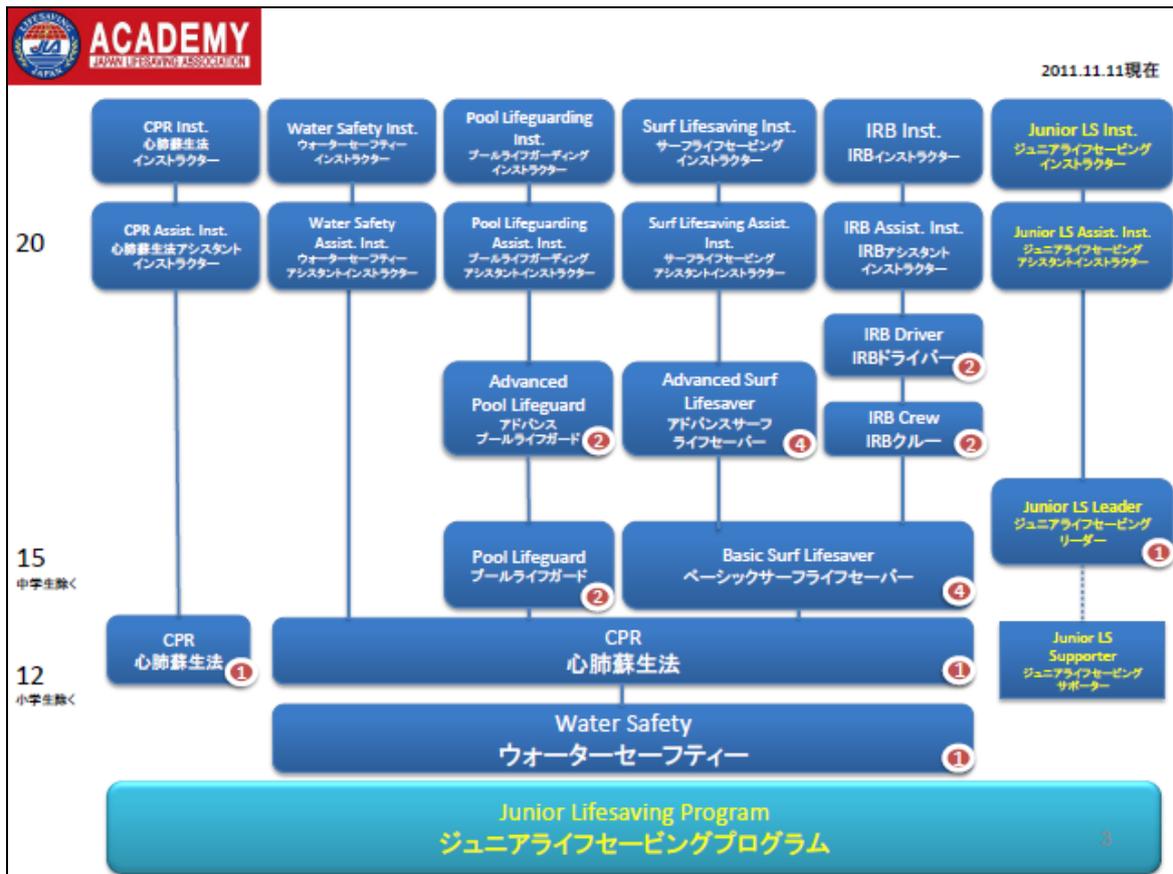
ジュニア・リーダー養成講習会 ＜タイムテーブル＞

月 日 () 会場 :		
項目(配当時間)	時刻	参加者
準備・打ち合わせ (45min)	8:00	
受付 (15)	8:45	現地集合・受付
開講式 (15)	9:00	開会式・諸連絡
ジュニア教育 映像放映		
講義 (15×7)	9:15	①ジュニア教育概論 ②リーダーの役割と心掛け ③子どもについて ④ジュニア教育とスポーツ ⑤ジュニア教育と心肺蘇生法・応急手当 ⑥Water Safety ジュニア ⑦伝え方
休憩 (10)	11:00	休憩時間を活用して交流を図る。
演習Ⅰ (45+15)	11:10	アイスブレイク 実践を通して学ぶ。お互いの緊張をほぐす。
		ワークショップ <実習指導案作成>
昼食・休憩 (50)	12:10	昼食・休憩時間を活用して交流を図る。更衣など。
実習 (45×3)	13:00	ウォーターセーフティー指導実習
休憩 (15)	15:15	休憩時間を活用して交流を図る。更衣など。
演習Ⅱ (45)	15:30	ワークショップ <指導実習のふりかえり>
休憩 (15)	16:15	検定準備
検定 (15)	16:30	ペーパーテスト
閉講式 (15)	16:45	閉会式・諸連絡(アンケート用紙記入)
解散	17:00	片付け・解散

【ウォーターセーフティー指導実習の様子】



「ジュニア指導者養成講習会」の資格体系



ジュニア教育指導者資格 一覧表 (2012年2月現在)

	サポーター	リーダー	アシスタント	イントラ
役割 (ジュニア教室の指導)	Jr.教育の支援 JLAの応援	Jr.教室の指導 (修了証発行可) 指導計画の作成	Jr.教室の運営・指導 イントラ補助 指導計画の立案・作成	Jr.教室の運営・指導 委員会WGメンバーへ 指導計画の立案・作成
役割 (ジュニア指導者の養成)			サポーター育成 (修了証発行可) イントラ補助	リーダー講習会の 運営・指導・合否判定 (サポーター育成会)
年齢	15歳以上	15歳以上	20歳以上	
時間	3h	7h (プ2講2フ2検1)	14h (海3講4フ6検1)	
条件	興味・関心	WS+BSL or PLG (PLG海活動制限あり) 1シーズンP経験	Jr.リーダー10h経験 WS AI+CPR AI 推薦	Jr.アシスタント JLA Jr.教室20h経験 サポーター講習と リーダー講習補助 1回
検定	なし	あり 1)学科 10問 2)実技 ①ワークショップ ②CPR実習 ③WS Jr.指導実習	あり 1)学科 20問 2)実技 ①ワークショップ ②小児・乳児CPR実習 ③サーフ Jr.指導実習 3)口頭試問・面接	指導実績による 昇格認定
形態	修了証 任意会員	資格 会員	資格 会員	資格 会員
費用	未定	未定	未定	未定

ジュニア・ライフセービング・サポーターの役割

- ジュニア教育の支援・JLAの応援
《主役は子ども達！》
- ジュニア教室の環境づくり(指導者の補助)
《指導はリーダー・インストラクター》
- ライフセービングの理解
- クラブやコミュニティとの連携



ジュニア・ライフセービング・リーダーの役割

- 子ども達への直接的な指導
- ジュニア・ライフセービング・サポーターとの協同
- JLAジュニア教育プログラム修了証の発行
- 水辺の安全教育の実践と研究

ジュニア・ライフセービング アシスタントインストラクターの役割

＜ジュニア教室の指導＞

- ジュニア教室の指導運営
- ジュニア・ライフセービング・サポーター・リーダーとの協同
- 水辺の安全教育の実践と研究

＜ジュニア指導者の養成＞

- ジュニア・ライフセービング・サポーター養成講師
(修了証発行)
- ジュニア・ライフセービング・インストラクターの補助

ジュニア・ライフセービング・インストラクターの役割

＜ジュニア教室の指導＞

- ジュニア教室の指導運営と企画(クラブ主催)
- 水辺の安全教育の実践と研究

＜ジュニア指導者の養成＞

- サポーター&リーダー講習会の企画・運営・講師・検定

＜将来的に・・・＞

- 各クラブ1名以上の資格保持者を。
- ジュニア教育委員会のWGメンバーへ。